

## 16

## 「陸軍軍医学校防疫研究報告」Ⅱ部(その三)

—鼠と蚤とペスト菌の関連論文の分析—

筋 昭三

城北病院

## 【研究の目的・方法】

107回総会では「陸軍軍医学校防疫研究報告」Ⅱ部の「概略」を、109回総会ではそれらの研究に「加担した医学者たち」を分析報告した。今回は「研究報告」に掲載されている790篇の論文中の「ペスト菌」関連の論文を分析し、その研究の内容と当時実施されていた日本軍の細菌戦(731部隊等)の実態との関連を検討することを目的とした。

## 【結果】

## ①「ペスト菌」関連の論文数とその内容

「研究報告Ⅱ部」全体790篇の研究論文中の「ペスト菌」関連の論文は67篇(8.5%)である。その内容は海外の「細菌戦総論」(ペスト関連)の紹介2篇、鼠関連3篇、蚤関連19篇、ペスト菌関連34篇、ペスト流行と疫学9篇となっている。

## ②各項目別の論文内容の特徴

- \*「細菌戦総論」：ドイツのHolmut Klotzの論文は細菌戦に使用する菌として炭疽菌芽胞、ペスト菌を挙げている。内藤良一はアメリカ陸軍のLeon A. Foxの論文を翻訳し、その評価として「現在実際に克服し難き操作的困難の為め病原体を効果ある戦争武器として使用せられるに至っていない事は確かである」と述べている。
- \*鼠関連研究論文：鼠の飼育に必要な飼育器の大きさの研究、大量の鼠の移送での飼料、共食状況、死亡数等を論じている。蚤の大量生産のための鼠の生態の基礎研究と中国戦線等への輸送方法の研究であろう。
- \*蚤関連論文：「けおびすねずみのみ」の生態研究(飛躍力一水平、垂直距離、背光性等)から蚤の収集法や保管庫の規格を提案。また飼育法では、好適温度、好適湿度、繁殖、孵化等の好条件を検討し、羽化後15日前後で大半は死亡することを明らかにしている。更に蚤の異常環境(高温・低温・低圧・飢餓等)での生態も研究している。
- \*ペスト菌関連論文：ペスト菌の促成・大量培養の方法、毒性判定、免疫能とワクチンの製造、ペスト菌の凍結真空乾燥法の研究(真空乾燥菌の性状一凍結真空乾燥菌は1~4°Cで10ヶ月保存可能、免疫原性に变化なし)等を発表している。
- \*ペストの診断と治療：ペスト治療における血清治療、健馬血清の効果など。
- \*ペストの流行史：疫学(略)

## ③考案

防疫研究室の幹部であった井月三郎、井上隆朝両元軍医大佐は「軍医学校では敵が生物兵器を使用した場合の防御に関するもののみであった」と証言している。しかしその後内藤良一(防疫研究室責任者)は当時研究室でのペスト菌の研究は、細菌戦遂行上から特に重視していたと証言している。上記67篇の研究成果をみると、これらの一連の研究は細菌戦遂行上重視され、特に「ペスト蚤」製造に重要な知見を提供していたと云えよう。

## ④結論

「研究報告」のペスト関連研究を分析すると、その研究の実態はペスト菌使用の細菌戦、特に攻撃用細菌としてのペスト菌の基礎研究、攻撃用「ペスト蚤」製造と関係する鼠・蚤の生態の研究及びペストワクチンの研究等が主であったようである。